

臨床検査精度管理調査参加料金改定（案）

	当初予算	改定案①	改定案② 血液検査試料含む	改定案③	改定案④ 血液検査試料含む
参加料	(県内)22,000 (県外)32,000	(県内)30,000 (県外)40,000	(県内)30,000 (県外)40,000	(県内)40,000 (県外)50,000	(県内)40,000 (県外)50,000
収入（計）	1,770,000	2,410,000	2,410,000	3,210,000	3,210,000
県内施設（79）	1,738,000	2,370,000	2,370,000	3,160,000	3,160,000
県外施設（1）	32,000	40,000	40,000	50,000	50,000
支出（計）	2,912,624	2,912,624	3,528,624	2,912,624	3,528,624
調査費用（技師会委託分）	2,064,784	2,064,784	2,064,784	2,064,784	2,064,784
委員会、報告会等	847,840	847,840	847,840	847,840	847,840
血液検査試料（市販品）※			616,000		616,000
上記以外、医師会支出額	1,142,624	502,624	1,118,624	-297,376	318,624

※3,850円/本で設定（1施設2本配布）

【決定したい事項】

①血液検査分野の試料について	【	供血者より採血	OR	市販品	OR	継続検討	】
②①の実施年度	【	令和		年度から実施			】
③参加料金の改定について	【	改定案①	改定案②	改定案③	改定案④		】
④③の実施年度	【	令和		年度から実施			】

今後の沖縄県医師会臨床検査精度管理調査における検討課題

【議題：血液検査分野における試料の作成について】

⇒現在、血液検査部門の血球算定検査（5項目）で使用している血液検体試料の作成は、ボランティアの供血者2名から400ml採血を実施してそこから採血管に分注する。

（問題点として）

- ① 供血者の確保
- ② 貯血をしている時に迷走神経反射（VVR）が発生した際の責任問題
- ③ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針において、研究目的またはそれに準ずる公的事業のために本来不要な400mlの血液の採取は、侵襲を伴うものと判断される可能性があります。そのため、以下の手続きが必要となりますが、現在は実施できていません。
 - ・安全性を担保するための研究計画書・実施計画書の策定
 - ・事業の主体者の第三者委員会（倫理審査委員会）による適格性の審査
 - ・**供血者に対する書面での十分な説明と同意の取得**

（九州各県の動き）

・2026.3月の日臨技九州支部血液検査部門のアンケート結果

自家調整試料使用：沖縄県、長崎県、佐賀県（現在、市販遺品を検討中）

⇒自家調整のため、各施設が導入している検査機器メーカーによるばらつきが存在しない。

市販品使用：宮崎県、熊本県、鹿児島県、福岡県

⇒一定の検査機器メーカーが作成している市販品のため、そのメーカー以外の検査機器で測定した場合に、機器間差が発生する可能性がある。実際に発生すると考えています。現在、県内の血算検査の測定機器の分布は、シスメックス社が60施設で86%、次いで日本光電、ベックマン・コールター株式会社となっております。

⇒市販品を使用した場合、下記の購入費用が発生します。

550,800～583,200円（3,240円/本）